

敗

四年 画数 11
 筆順 口 目 貝 敗
 フン ハイ やぶられる

成り立ち



「貝(11)」と、手にぼうを持った形の「攴」とを組み合わせて作った字です。

「手に持ったぼうで貝をたたいている形」を表した字で、「貝がらが『やぶれる』こと」を表したものです。「やぶれる」「こわれる」「だめになる」という意味の字です。

【例】腐敗。

いくさで、「まける(やぶれる)」ことにも使われます。

【例】敗戦、敗軍、勝敗。

また、「しくじり」の意味にも使われます。【例】失敗。

使い方

▽勝敗は時の運だが、敗れた時は、「敗軍の将、兵を語らず」で、小さくなっている方がよい。

▽「失敗は成功の母」ということわざがあります。最初のうちは失敗が多いものですから、それを恐れず、どんどん試してみているうちに、何事も上手になるのです。

熟語例

▽腐敗(腐つて、だめになること。物が腐つてだめになったり、心が腐つて墮落することをいいます。「政界の腐敗に心を痛める」などというふうにも、つかいます。)

▽敗戦(戦いに敗れること。「この敗戦の原因は、作戦のまずさにある」などというふうにも、つかいます。)

▽敗軍(戦いに敗れた軍隊。また、戦いに敗れることをもいいます。「敗軍の将をいたわる」などというふうにも、つかいます。)

▽勝敗(勝つことと負けること。勝ち負け。「勝敗は時の運」などというふうにも、つかいます。)

▽失敗(しくじり。やりそこない。「失敗しても、もともとだから、思いきってやってみよう」などというふうにも、つかいます。)

梅

四年 画数 10
 筆順 木 梅 梅
 フン バイ うめ

成り立ち



もと、梅の木は「某」という字でした。「甘ずっぱい」という意味の「甘」と「木」とを組み合わせて、「甘ずっぱい実のなる『うめの木』」を表しました。

ところが、「某日」「某氏」という使い方に用いられるようになりしたので、「某」と同じ音の「毎」と、「木」とで、「うめの木」を表す新しい字を作ったわけです。

〔某は今ほボウであるが、バイであったことは「媒」でわかる。漢音バイは、呉音ではマイになる。毎は呉音でマイと読まれているが、漢音はバイで、だから、梅はバイと読まれているのである。また、「媒」とも書く。〕

使い方

▽日本では、梅の実がなる頃に、長い間雨が降ります。これを「梅雨」と呼びます。梅の実の頃に降る雨、という意味です。この時期は湿度が多く、かびが生えやすいので、注意が必要です。「梅雨」は「つゆ」とも読みます。

熟語例

▽紅梅(赤い花の咲く梅)

▽白梅(白い花の咲く梅。「しらうめ」とも読みます。)

▽観梅(梅見。梅を見て楽しむこと。「観梅の宴を催す」などというふうにも、つかいます。)

▽探梅(梅を探して、見て楽しむこと。「探梅行」などという言葉もあります。)

熟語例

▽寒梅(寒い中で咲いている梅)

▽梅林(梅の林。「近くの梅林に梅見に行った」などというふうにも、つかいます。)

▽梅園(梅の園。梅がたくさん生えている庭。「水戸の偕楽園は、有名な梅園です」などというふうにも、つかいます。)